

2004年10月19日

各位

会社名 双日ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 西村 英俊
(コード番号 2768 東証第1部/大証第1部)
問合せ先 広報部長 吉村 剛史
電話番号 03(5520)3404

当社子会社(日商エレクトロニクス株式会社)の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社である日商エレクトロニクス株式会社(コード番号9865)は、2004年5月10日に公表しました2005年3月期(2004年4月1日~2005年3月31日)の中間期および通期の業績予想について、添付資料のとおり修正を行いましたのでお知らせいたします。

尚、当社2005年3月期の中間連結業績予想は現在集計中ですが、本件が与える影響は軽微です。

(添付)

日商エレクトロニクス株式会社の開示資料

以上

平成16年10月19日

各 位

会社名 日商エレクトロニクス株式会社
代表者名 代表取締役社長 辻 孝夫
(コード番号 9865 東証第1部)
問合せ先 経理部長 堀江 敏伸
(TEL. 03-3544-3780)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成16年5月10日の決算発表時に公表した平成17年3月期(平成16年4月1日～平成17年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成17年3月期個別中間業績予想数値の修正(平成16年4月1日～平成16年9月30日)
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	25,000	380	160
今回修正予想(B)	23,500	230	230
増減額(B-A)	1,500	150	70
増減率(%)	6.0	39.5	43.8
(ご参考) 前期実績(平成15年9月中間期)	24,710	355	42

2. 平成17年3月期連結中間業績予想数値の修正(平成16年4月1日～平成16年9月30日)
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	27,000	250	2,250
今回修正予想(B)	26,000	380	1,990
増減額(B-A)	1,000	130	260
増減率(%)	3.7	52.0	11.6
(ご参考) 前期実績(平成15年9月中間期)	39,949	467	454

3. 平成 17 年 3 月期個別通期業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	56,000	1,380	680
今 回 修 正 予 想 (B)	55,600	1,000	580
増 減 額 (B - A)	400	380	100
増 減 率 (%)	0.7	27.5	14.7
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	52,317	1,014	338

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 20 円 31 銭

4. 平成 17 年 3 月期連結通期業績予想数値の修正 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 17 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	60,000	900	2,400
今 回 修 正 予 想 (B)	61,000	700	1,800
増 減 額 (B - A)	1,000	200	600
増 減 率 (%)	1.7	22.2	25.0
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	82,618	1,415	4,444

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 63 円 05 銭

5．修正の理由

（個別中間業績予想の修正）

個別中間業績予想につきましては、企業間競争の激化により販売価格が下落しているなか、企業のIT関連に対する投資意欲は引き続き弱く通信ネットワーク関連全般が低調に推移いたしました。デバイス関連部門においてもハードディスクドライブの新製品投入時期が遅れたことなどから売上高は当初予想に比べ約6.0%減少する見込みであります。

一方、利益につきましては、売上高の減少により経常利益は当初予想に比べ約39.5%下回る見込みですが、当期純利益につきましては投資有価証券売却益等により当初予想に比べ約43.8%上回る見込みであります。

（連結中間業績予想の修正）

連結中間業績予想につきましては、上記のとおり個別中間業績が影響し、売上高は当初予想に比べ約3.7%減少する見込みであります。利益につきましては、上半期においてフュージョン・コミュニケーションズ株式会社の持分比率が下がったことから経常利益は当初予想に比べ約52.0%増加いたしましたが、当期純利益は関係会社の損失の増加により約11.6%減少する見込みであります。

（個別通期業績予想の修正）

個別通期業績予想につきましては、下半期においてデバイス関連部門は新製品の投入が見込まれており、売上高は上半期に比べ大幅に増加する見通しですが、当初の予想数値まで回復するには至らず通期売上高は若干減少する見込みであります。利益につきましては、デバイス関連部門の取扱製品は比較的利益率が低いことから経常利益、当期純利益とも期初の予想数値を下回る見込みであります。

（連結通期業績予想の修正）

連結通期業績予想につきましては、当期より新規に連結子会社が増加したことにより通期連結売上高は約1,000百万円増加する見込みであります。利益につきましては、個別通期業績の低下および新規連結子会社にかかる連結調整勘定の償却が増加したことにより経常利益、当期純利益とも期初の予想数値を下回る見込みであります。

以 上